

新潟県小学校教育研究会 郡市研究レポート 村上市

1 研究テーマ

新指導要領の趣旨に沿った家庭科授業のあり方

2 テーマの趣旨

新指導要領では、家庭科指導における基本方針として、次のことが述べられている。

- ① 社会において子どもたちが自主的に生きる基礎を培うことの重視。
- ② 小学校、中学校の学習を体系化することによる基礎・基本の重視。
- ③ 社会の変化への対応。
- ④ 実践的・体験的な活動と問題解決的な活動の充実。
- ⑤ 実践的な態度をはぐくむ教育の充実。

家庭科部では、これらの改訂の趣旨に沿った家庭科授業のあり方を実践を通して研修を行っていくこととした。

3 活動の概要（平成23年度）

4月26日（火） 地区代表部員会（保内小学校）

- ・ 研究テーマの決定。
- ・ 活動計画の作成。

8月23日（火） 地区代表部員会（関川小学校）

- ・ 指導案検討。
- ・ 家庭科部員会実施日の決定。

11月16日（木） 家庭科部員会（関川小学校）

- ・ 提案授業の参観、その後協議会。
- ・ 教育課程伝達講習。

4 実践事例

関川小学校で、「まかせて！栄養バランス満点の食事作り。～家族に喜んでもらえる食事作りを目指して～」の提案授業を行った。提示された3つの先生の食事例について、栄養バランス表から問題点を探させ、食材を足したり抜いたり、材料や調理法を変えたりといった解決方法を考えさせる1(7/12)時間を公開した。単元を通して栄養査と連携を図っており、公開授業の際も、子どもたちに専門的な知識を生かしたアドバイスをしていた。子どもたちは、この時間までに行った「給食献立のバランス調べ」「栄養満点おすすめ給食を考える」といった学習で学んだ知識や技術を生かして考えることができた。単元の中では、家族へのインタビューや食事調べなども取り入れ、学校での学習と家庭での実践の結び付きを図った。また、自分の考えを言葉で表現したり、グループや全体で自分の考えを説明したり、話しあったりという活動も積極的に取り入れた。単元構成にも、各1時間の授業の展開にも、新指導要領改訂の趣旨を生かそうとする工夫があり、参観者から「問題解決学習の取り入れ方が参考になった。」「給食の希望献立作りと結び付けるなど、学習したことが生活の中で生きる経験をさせていて、実践することの喜びが味わえる構成になっている。」などの声が聞かれた。